

新潟港 港湾脱炭素化推進計画 (最終案)

【概要版】



令和 6 (2024) 年 3月

新潟港の現状

特長

- **太平洋側の大規模災害に備えた代替機能**
(同時被災しにくい日本海側に立地、交通アクセス良好、太平洋側との天然ガス輸送用パイプライン)
- 豊富な輸入LNG取扱実績、周辺地域に**大規模火力発電所**や**エネルギー産業、化学産業等が集積**
- 岸壁近接地に**工業用地としての活用が期待される広大な土地**が存在



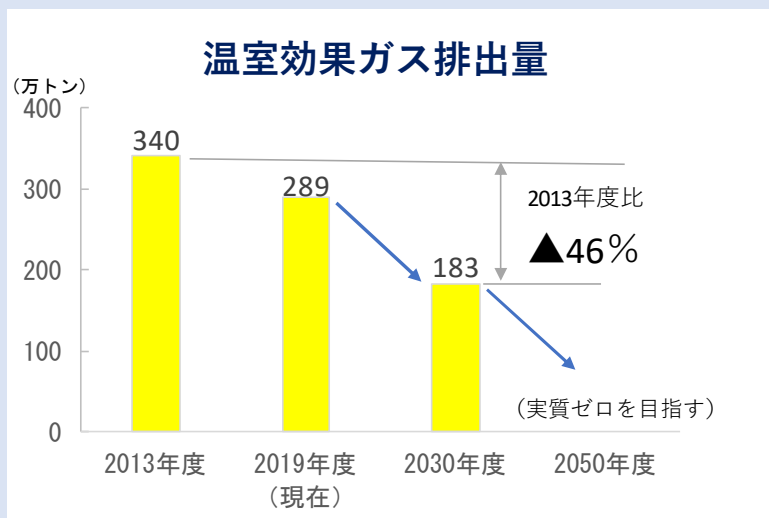
カーボンニュートラルポート形成に向けた方向性

官民連携による港湾の脱炭素化促進に向けた方針

- (1) **次世代エネルギーの日本海側拠点**の形成（立地等による優位性を活かし、直江津港と連携して輸入拠点を形成）
- (2) **港湾エリアを起点**とした脱炭素化の推進（港湾機能、港湾を経由する輸送、隣接エリアの脱炭素化を促進）
- (3) **新潟カーボンニュートラル拠点開発・基盤整備戦略**の実現

温室効果ガス排出量推計・削減目標

- 新潟港の温室効果ガス排出量は**約290万トン**（2019年度推計値）
- **2030年度に約180万トンまで削減**を目指す（**2013年度比▲46%**）
- **2050年度に排出量実質ゼロ**を目指す



次世代エネルギー需要推計

- 新潟県内港を経由して供給される可能性のある**次世代エネルギー需要推計**（2030年度）
※計画対象範囲における需要+新潟県内港を経由して供給される可能性のある広域需要の合計（新潟県推計）
※関係者と具体的な調整がなされたものではない

水素 約 17万トン
燃料アンモニア 約 163万トン

港湾脱炭素化促進事業

- **港湾オペレーション**の脱炭素化（ハイブリッド型荷役機械、脱炭素電力の導入）
- **再生可能エネルギー**の供給拡大（バイオマス、洋上風力）
- **火力発電所**の脱炭素化（水素混焼実証）
- **CCUS***関連技術の活用に向けた調査・実証
※二酸化炭素回収・有効利用・貯留